

荒川の自然はみんなのおかげで

川を育むみなさんを応援します 武州・入間川プロジェクト

荒川上流河川事務所は武州ガス(株)、(公財)埼玉県生態系保護協会と連携して「武州・入間川プロジェクト」に取り組んでいます。これは、入

間川流域で行う自然環境の保全、再生、創出活動、およびこれらに係る学習会や環境・防災活動を助成するものです。

対象は入間川流域の8市8町1村の市民団体や学校などで、1団体20万円が上限です。申請締切は3月17日。

武州・入間川プロジェクトで検索



非営利団体による公益的な活動を支援します
(写真:上尾の自然を守る教職員の会)

近隣の企業も参加して支えています 荒川太郎右衛門地区自然再生事業

県道12号が荒川を渡る太郎右衛門橋の下流に、荒川太郎右衛門地区があります。大正時代に始まった河川改修によって蛇行していた河道が直線化され、本流と切り離された旧流路が池や湿地として残り、周辺には河畔林が広がっています。しかし、乾燥化によってかつての自然環境が失われつつあり、行政や地域住民、NPO、専門家などが参加して自然再生事業に取り組んでいます。

自然再生地の周辺には広い河川敷を活用したエアポートがあり、昨年11月にはエアポートを運営する本田航空(株)に自然再生地内の通路の除草を実施していただきました。みなさんの参加もお待ちしております。詳しくは事務所のホームページで。



本田航空(株)が自然再生地内の通路の除草作業を実施しました

●原画:山口真未 ●監修:田中将賀 ●仕上げ:山口舞 ●背景:アートチームコンボイ ●特効:森山博幸
© KOKOSAKE PROJECT



育まれた環境は、豊かなんだ

春、荒川河川敷の田島ヶ原には、100万株ともいわれるサクラソウが可憐な花を咲かせます。この自生地は国の特別天然記念物に指定された貴重なものです。

荒川の中流部は「川幅日本一※」といわれ、広い河川敷には豊かで貴重な自然環境が現在も残っています。流域に点在するかつては流路だった沼や湿地、河畔林などは多様な生物の生息・生育環境になっていて、さらに良好な環境を創出するためにビオトープなども整備されています。 ※鴻巣市、吉見町付近

また、荒川では、こうした自然環境の保全や再生を住民のみなさんが積極的にかかわって支えています。荒川の豊かな自然を未来へつなぐ活動に、あなたも参加してみませんか。

水防災意識社会って何だろう

「犠牲者を出さない」取り組みが始まっています。 水防災意識社会へ、みなさんの地域も始めませんか!

「鬼怒川堤防の決壊は衝撃的で、堤防で守り切れない水害は起こるものと深く記憶に刻まれました」と話すのは戸田市の大野和幸さん、上町防災会の防災副部長です。大野さんらは「この町内から一人の犠牲者も出さない」ための取り組みを進めています。

高齢化が進んでいることもあり、まず取り組んだのは早期避難の仕組みづくり。避難に支援が必要な住民の把握と、手助けに駆けつける人員の確保でした。「回覧板だけではなかなか。何度も足を運んで話すことで、水害は起こるものという意識が高まり、避難を自分事として考えてもらえるようになりました。」

大野さんらは浸水箇所を想定した避難訓練も重ねています。避難路の確認や避難支援の実行性を高めるためです。一人の犠牲者も出さない取り組みは、地域の絆を取り戻すきっかけにもなったとか。水防災意識社会の再構築へ、みなさんの地域でも始めませんか。



荒川上流河川事務所



心が叫びたがってるんだ。
Beautiful World
Beautiful World

荒川の上流、秩父を舞台にした
劇場アニメ「心が叫びたがってるんだ。(ここさけ)」との
コラボが実現しました。主人公たちが
4回にわたって荒川の今を
紹介する最終回です。